BULLETIN OF JAPAN BOOK IMPORTERS ASSOCIATION

JBIA 洋書輸入協会会報

Vol. 32 No. 3（通巻370号）1998年3月

理事会報告

2月24日（火）

1．1月収支につき総務委員長報告を承認した。

2．委員会報告

- 「物流アンケート」の提案文に具体的なプランを盛り込んだ方が理解を得やすいのではないか、との意見が出された。〔総務〕
- 4月号より刷り色を変える。〔会報〕
- 東京国際ブックフェア98/洋書バーゲンセール売上金の集計・配分を完了した。〔事業〕
- 2月26日にAgent Listの初校を委員全員で行う。制作は順調に進行している。（ダイレクトリー）

3．共同物流提案・アンケート

理事会としては当面おおよそのデータが得られれば良いし、またこの提案に対する会員の関心の度合いと考えが知りたいので、当初案文で実施する。

4．規約改正委員会報告

総務委員会の提言および理事会の決定を踏まえて討議し、基本的な方針を決めた。改正作業を3月より開始する。〔渡辺委員長〕

海外ニュース

東京国際ブック・フェア報告

1998年東京国際ブック・フェアは、1月22日から25日の間、世界38ヶ国からの423社の参加者を得て、広大な埋め立て地に建てられた巨大な21世紀スタイルのビル群のひとつである東京国際会議場で開催された。また、17ヶ国によるアジア・太平洋地域出版社協会の年次総会と、第4回IPA国際著作権シンポジウムも同時に開催された。

フランス書籍振興団体France Editionは、トリコロール（三色旗）に彩られた巨大なスタンドを擁して、「日本におけるフランス年」と題したイベントを開いた。フランスの主要な出版社40社、2,500点のフランス書籍、そして10人のフランスの作家たちが参加して、文化交流の場が持たれ、特にジャン・フィリップ・トゥサン（『カメラ』『浴室』等の作者）とブリジット・オベール（『鉄の薔薇』『マーチ博士の四人の息子』等の作者）の二人の回りには人だかりができた。

海外の作家、日本の評論家、そして学術的権威者が参加したパネル・ディスカッションは、このユニークな国際的イベントに引き寄せられてきた図書館員や書店業者たちを楽しませ、4万人を超える人々がこれらのパネル・ディスカッションに参加した。ブック・フェアそのものは前回より25%も規模を大きくしたが、取り引きの日は2日間に限られ、一般公開も週末のみと、実質的な効果という点では難しさが残った。

ブックフェアは4日間開かれ、そのうち3日間が著作権シンポジウムと重なった。世界各国から参加したIPAのメンバーは、アジア地域で起きている著作権法とその施行にかかわる問題が印象的だったと語った。「これらの問題は、今や全世界的な関心事となっている。そして、アジア・太平洋地域の出版社が我々と同様の関

目次

理事会報告・海外ニュース ……1・2
文化厚生委員会だより ほか ……2
1997年洋書輸入通関統計（前編） ……3・4
出版文化史逍遥(25) ……5
ブルゴスのグーテンベルグ聖書 ……6・7
広　告 ……8

心を抱いていることを実証したという意味で、会議がアジアで開かれたことには大きな意義がある」とAAPのMs. Carol Risherは語った。IFLAを代表するオーストラリアの図書館員が反対意見を述べた点を除けば、会議は非常にポジティブな雰囲気だった。会議のなかで、ロンドンに拠点を置く国際出版者著作権協議会のMr. Charles Clark, General Counselは、いかなる形で提供されるにせよ、知的所有権に経費が内包されるかについて、てきぱきとした口調で説明した。

来年の東京国際ブック・フェアは、ワールド・ブック・デイである4月23日にあわせ、期日を4月22日から25日の4日間にうつして開催される。詳細な情報についてはReed Exhibition Group（FAX：(03) 3345-7929、ホームページ：www.reed.co.jp/tibf/、又はe-mail：LDU00465@niftyserve.or.jpかchan@reed.co.jp）へ問い合わせのこと。

PUBLISHERS WEEKLY/FEBRUARY 2, 1998

文化厚生委員会だより

第33回麻雀大会

囲碁、将棋等は力の差が歴然としているが、"運八分"とも言われている麻雀では"ツキ"次第で誰でも勝つことができる楽しいゲームです。文化厚生委員会主催の第33回大会が2月24日東京駅八重洲口近くの雀荘で16名の強豪が集い賑やかに開催された。好プレイ、珍プレイあり、適度のアルコールも手伝って、和やか裡に半荘3回のゲームを終了した。成績は下記のとおりでした。

優　勝　塚本（大洋交易）　+83
準優勝　内田（東亜ブック）+43
第3位　村山（ゲーテ）　+30
ＢＢ賞　和田（大洋交易）　敢闘賞　戎井（丸善）
小波賞　井比（丸　善）　残念賞　尾崎（エイビス）

その昔は賭博感をもたれ、戦後は出世の術としてもて囃された麻雀も、最近は一人で遊べる娯楽が多くなり若年層が減少しているらしいが、当協会の大会は非常に楽しいので、今後は多くの方々の参加を望みます。

村山（ゲーテ）記

海外ニュース

Asian currency crisis hits indonesian book trade

アジアでの通貨危機が、インドネシアの書籍販売に深刻な打撃を加えている。通信社の報告によると、480社ある同国の出版社のうち業務を続行できているのは僅か200社のみで、通貨危機がこのまま続けば3月までにそれも100社ほどに減るだろうと専門家は予測している。西欧各国の通貨に対するインドネシア・ルピアの価値が下落したことに伴って、出版のための紙・インク・フィルム代金が高騰したことが問題の要因となっている。

ジャカルタで最近開催されたセミナーの席で、インドネシア出版協会（Indonesian Book Publishers Association）の会長Rozali Usman氏は多くの出版社が出版を停止しており、状況が好転しなければ、より多くの出版社が同様の状況を強いられるだろうと語った。

THE BOOKSELLER/JANUARY 30, 1998

事務所を移転しました

会員名：㈱穂高書店
新住所：〒101-0051
東京都千代田区神田神保町3-13-8
神三ビル5F
Tel：(03)3262-7791
Fax：(03)3262-7793
移転日：1998年3月26日

JBIA DIRECTORY 1998
〈洋書輸入協会ダイレクトリー1998年版〉
—4月中出来予定—

25.7×18.2cm 280頁　会員価格　2,500円
一般価格　4,500円
海外価格　8,000円
（＊いずれも送料込み、
海外は航空便）

1997（平成９）年１～12月、洋書輸入通関統計とその分析（前編）

洋書輸入協会顧問　**相良　廣明**

大蔵省関税局から、1997（平成９）年１～12月の日本貿易統計が発表されたので、その中の洋書関係の数字をピック・アップして表示すると共に、若干の分析を試みたい。

1． 1997年１～12月、書籍・雑誌の輸入通関統計表

（表１）

（単位　百万円）

分類	品目	'96.1~12月 輸入価額	'97.1~12月 輸入価額	前年比	構成比
書籍	単一シートのもの	144	121	% 84	
	辞典及び事典	742	545	73	
	その他のもの	28,513	34,787	122	
	小　計	29,399	35,453	121	% 66
新聞・雑誌	一週に４回以上発行するもの	117	107	91	
	新　　聞	42	78	186	
	雑誌その他の定期刊行物	19,685	18,035	92	
	小　計	19,844	18,220	92	34
計		49,243	53,673	109	100

〔注記〕

(1)　書籍について

（注１）書籍とは、「印刷した書籍、小冊子、リーフレットその他これらに類する印刷物（単一シートのものであるかないかを問わない）」を対象とする。

（注２）単一シートのものは、折り畳んであるかないかを問わない。この分類は '88より新設のもの。

（注３）辞典及び事典には、シリーズの形式で発行するものを含む。この分類は '88より新設のもの。

（注４）「その他のもの」が、いわゆる一般の書籍である。

（注５）書籍は、現品入荷月の15日までに届出が行われるため、入荷より平均１カ月の遅れで計上されている。

(2)　新聞・雑誌について

（注１）新聞、雑誌その他の定期刊行物は、挿絵を有するか有しないか、または広告を含んでいるかいないかを問わない。

（注２）「一週に４回以上発行するもの」は、'88 より新設のもの。新聞ではない。

（注３）雑誌は、最終号が到着したと認められる時点において届出が行われるため、初号入荷時よりも約１年遅れで計上されている。

(3)　その他

（注１）原価は CIF 又は C&F である。

（注２）小額貨物の20万円以下は含まれていない。

2． 最近11年間の推移一覧

（表２）1987～'97年、書籍、新聞・雑誌輸入通関統計推移表（指数は1980<昭和55>年を100としたもの）

（単位　百万円）

歴年	書籍			新聞・雑誌			計		
	価額	前年比	指数	価額	前年比	指数	価額	前年比	指数
1987	21,461	118	93	12,339	125	110	33,800	121	99
'88	23,143	108	101	13,591	110	121	36,734	109	107
'89	27,181	117	118	14,083	104	125	41,264	112	120
'90	33,274	122	145	16,966	120	151	50,240	122	147
'91	27,124	82	118	14,399	85	128	41,523	83	121
'92	26,597	98	116	19,360	134	172	45,957	111	134
'93	24,109	91	105	15,928	82	142	40,037	87	117
'94	23,924	99	104	16,023	101	143	39,947	100	117
'95	24,520	102	107	17,418	109	155	41,938	105	122
'96	29,399	120	128	19,844	114	177	49,243	117	144
'97	35,453	121	154	18,220	92	162	53,673	109	157

（注）1988（昭和63）年から、雑誌に新聞が含まれたため、'87 年以前の数字は、すべて新聞含みの数字に訂正して算出した。

3． 分　析

(1)　書籍、新聞・雑誌の合計輸入額では史上最高

数字としては３年連続の成長で、'97年は'94年比34.3％（年平均で11.4％）のアップとなっている。その結果''97 年は史上最高で、'90 年以来２度目の500 億円台を記録した（表２参照）。これは'86 年比'90 年の４年間で79.4％アップ（年平均19.9％）に次ぐ高成長である。

しかし、業界全体としては倒産こそ無いものの、銀行の貸し渋りと顧客の買い控えで、深刻な不況感が漲っている。数字と事業実感との間に食い違いがあるのはいつものことであるが、昨年の輸入実績については殊にそれが甚だしいように思われる。

(2)　合計輸入額の前年比９％アップは、実質的には１％のアップ

'97 の主要6ヵ国の年間平均円相場を、各国からの洋書輸入額の構成比で加重平均し、その他の輸入国の平均円相場の上下を推定し加味したものは、（表4）のように8％の円安となっている。これは'97年の前年比9％のアップのうち、8％は円安のためのものであることを示しているから、実質成長は1％ということになる。

(3) 書籍輸入額は、21％アップとして史上最高

（表2）の書籍欄参照、これで最近11年間の推移を見ると、'91年から'95年の5年間は低迷状態であった書籍が'96年、'97年の2年間に45％も成長し、結果として'97年は史上最高の輸入額となった。そうはいっても1980（昭和55）年比'97年は、17年間で僅か54％のアップ（年平均3％余のアップ）でしかない。

(4) 新聞・雑誌は前年比8％減で、それでも史上3位

まずまず順調に成長を続けてきた新聞・雑誌も、ここへ来て一息ついた感がある。この2～3年来、予約定刊の減少がささやかれていたが、それがここへきて具体的になってきた。雑誌の輸入額は実質的に一年遅れで計上されるため〔（表1）注記(2)の（注3）参照〕、'98年は更に減少するかも知れない。

(5) 書籍と新聞・雑誌の比率が、'90年水準へ戻る

'90年66：34、'95年58：42であったものが、'97年は66：34と再び書籍の比率が増大し、'90年のそれへ戻っている。

4． 主要6カ国及びその他の国の、1997年1～12月、書籍、新聞・雑誌の国別輸入通関統計表

（表3）

（単位　百万円）

国名	書籍			新聞・雑誌			計		
	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比
		%	%		%	%		%	%
米	11,911	117	34	6,753	96	36	18,664	108	35
英	9,649	149	27	4,301	78	24	13,950	116	26
独	2,535	103	7	1,419	97	8	3,954	101	7
仏	763	85	2	365	92	2	1,128	87	2
オランダ	1,420	94	4	2,451	109	14	3,871	103	7
スイス	504	85	2	553	84	3	1,057	84	2
小計	26,782	121	76	15,842	91	87	42,624	108	79
その他の国	8,671	119	24	2,378	96	13	11,049	113	21
計	35,453	121	100	18,220	92	100	53,673	109	100

（注1）書籍は単一シート、辞・事典、その他を含む。
新聞・雑誌は、週4回以上発行するものを含む。

（注2）ドイツは1991年より東西ドイツ合併の数字を用いている。

〔分析〕

東西ドイツの数字が合併した1991年と'97年の表を比較すると、合計額で構成比を増大させたのは英国、オランダとその他の国、減少はドイツの4％減を筆頭とし米、仏、スイスと続く。

なお'97年の英・米書籍の急激な増大は、両国の円安率（表4参照）の増大によるところが大きい。

5． 為替相場の動向

1997年1～12月、主要6カ国の年間平均為替相場の前年比と、その他の国の前年比の推定、及び年間洋書輸入額構成比に応ずる各国相場前年比の加重平均とその集計（表4）

通貨	'96.年間平均為替相場	'97.年間平均為替相場	前年比	'97.年間洋書輸入構成比	'97.年間円高・円安の加重平均
	円	円		%	
US. $	109.86	121.99	11.0%の円安	35	3.9%の円安
Stg.£	174.11	202.27	16.2%の〃	26	4.2%の〃
D.M	73.05	70.51	3.5%の円高	7	0.2%の円高
F.FR	21.69	21.14	2.5%の〃	2	0.1%の〃
D.GL	65.17	62.63	3.9 %の〃	7	0.3 %の〃
S.FR	89.05	84.34	5.3 %の〃	2	0.1 %の〃
小計				79	円安8.1% 円高0.7% 差引円安7.4%
その他の国			推定3%の円安	21	0.6%の円安
総　計				100	8%の円安

（注）円高、円安率の計算は次の式によった。

$$\frac{\text{前年同期}-\text{当年}}{\text{前年同期}}\times 100$$

6． 1991～1997の為替相場と輸入額との相関推移と、輸入額の実質成長度一覧

（表5）

区分	1991	'92	'93	'94	'95	'96	'97
書籍、新聞・雑誌輸入額前年比	% 82.7	% 110.7	% 87.1	% 99.8	% 105.0	% 117.4	% 109.0
各国為替相場の洋書輸入額加重平均による前年比	7.6%の円高	4.6%の円高	17.0%の円高	6.6%の円高	3.4%の円高	14.1%の円安	8.0%の円安
円高・円安調整後の実質成長	% −9.7	% +15.3	% +4.1	% +6.4	% +8.4	% +3.3	% +1.0

（後編に続く）

ウェブスターの輸入と日本近代化〔4〕

丸善・本の図書館　鈴　木　陽　二

◆幕末・明治初期のウェブスター所蔵状況(2)

内閣文庫は現在国立公文書館に所属しているが、その歴史は明治17年に始まる。諸官庁で所蔵している図書を集中管理してその収集と利用の合理化を図ることを目的に「太政官文庫」として設立され、翌年明治18年に内閣制度の発足に伴って「内閣文庫」と改称された。明治政府の各行政機関の近代化促進策を反映して特に洋書の所蔵が多く、膨大な数が同文庫に移管されたようである。しかしそれらの洋書は、関東大震災や空襲で多くを焼失して現在は英書・仏書の4万5千冊が架蔵されているが、行政の欧化施策をたどるための素材として、あるいは日本近代文化史研究の面からも貴重な資料である。

内閣文庫は昭和48年に『内閣文庫洋書分類目録　英書篇』を刊行しているが、それによってウェブスターの所蔵状況を見てみることにしたい。目録にはウェブスター辞書が81点収録されており、そのうち諸官庁の旧蔵名が表示されているのが71点である。ひとわたり官庁名と設置の年代を記してみると、大蔵省（明治2年）、内務省（明治6年）、農商務省（明治14年）、大学南校（明治2年）、文部省（明治4年）、浅草文庫（明治7年）、書籍館（明治5年）、民部省（明治2年）、司薬場、司法省（明治4年）、外務省（明治2年）、左院（明治4年）、警視庁（明治7年）、元老院（明治8年）、東京開成所などで、現在残っているウェブスターの旧蔵先だけでもこれだけ幅広い官庁にまたがっている。

これら旧蔵所印のあるウェブスターは、1864年刊行のグッドリッチとポーターによる改訂版、すなわち“Mahn Edition”と呼ばれている版を始めとして、実にいろいろな種類が所蔵されている。点数といい旧蔵官庁の幅広さといい、また種類の多彩なことなどから見ると、ウェブスターが明治初期の行政機関にとって必備の基本文献であったことが理解できる。

池田哲郎先生は明治時代に日本に輸入されたウェブスター辞書の所蔵状況を丹念に調査されているが（静岡女子短期大学『研究紀要』第14号）、それには18点（21冊）がリストされており、所蔵先は福井県大野高校、弘前市東奥義塾、慶応義塾図書館、静岡県立図書館葵文庫、石川県和泉高校、盛岡県立一高、京都同志社大学新島旧蔵などである。そこには東奥義塾の1847年版や和泉高校の1859年版などかなり古い年代の版が見られるが、いつごろ収蔵されたのか不明である。東奥義塾は弘前藩時代の藩校「稽古館」が発展して明治5年に設立されたキリスト教系の私立学校であり、稽古館時代取得したウェブスターが継承された可能性もないわけではないだろう。同志社大学新島旧蔵書というのはウィリアム・ウェブスターとウィーラーの編纂になる『コモン・スクール英語辞典』(1870) であるが、一方稲村松雄氏の調査によると新島旧蔵書はアメリカ勉学時代にジョージ・メリアムから贈呈されたと思われる『アメリカ大辞典』1870年版と『ポケット英語辞典』1872年が大学に所蔵されていたという（『青表紙の奇蹟』）。

ウェブスターの所蔵について、上記稲村先生の著書によってもう一例だけ紹介しておきたい。ウィリアム・クラークといえば札幌農学校の教頭に招聘され、帰国に際して「少年よ大志を抱け」という言葉を残したことで有名なお雇い外国人であるが、1876（明治9年）に赴任して、教鞭を取るに当たって24名の生徒全員に「大きな辞書」を与えたことが彼の伝記に記されているという。同大学の明治11年の英籍目録には、確かに『エブストル大英辞書一部一冊本』24冊が収載されていたという。明治21年発行の『札幌農学校図書館図書目録』が現存しており、それを見ると“English Dictionary Unabridged”1871版が23冊所蔵されていることが記されているが、これがクラークの取り寄せたウェブスター大辞典と推定される。23冊というのは10年の間に1冊紛失したことを意味するのであろう。ちなみに、同目録には19世紀中に刊行されたウェブスター辞書が各種9点リストされているが、中には1857年刊行という古い版の“Primary Dictionary”が4冊所蔵され、別に同辞書の1872年版も21冊所蔵されている。古い版が何故4冊も所蔵されていたのか、この目録だけでは推定する由もない。

〔参照図書：池田哲郎「Noah Websterの辞典と綴字書を巡って—アメリカと日本と—／稲村松雄『青表紙の奇蹟—ウェブスター大辞典の誕生と歴史』〕

ブルゴス（スペイン）のグーテンベルク聖書

丸善・美術古書部　富田修二

『グーテンベルク聖書』は、ヨハネス・グーテンベルクにより、1455年頃マインツで印刷された。160-180部印刷されたが、そのうち48部が現存している。1996年、そのうちの１部を慶応義塾大学が入手して話題となった。（ドヒニー夫人、丸善旧蔵）

グーテンベルクの印刷所で印刷が終わった聖書は、ワインの樽に詰められてヨーロッパの各地へ送られた。そこで顧客のお抱えの彩飾絵師に預けられイニシャル書き、朱書きや彩飾が施された。したがってそれぞれの作品は個性豊かに出来上がっており、現存する48種のいずれをとって比較してみても一つとして同じ物がない。

ブルゴス州立図書館所蔵の『グーテンベルク聖書』は、印刷地と同じマインツで彩飾された。空押模様のついた16世紀の装幀である。（装飾地不明）長い間修道院が所蔵していたが、1870年修道院図書館が国の政策により廃止された際、ブルゴス州立図書館が入手した。このブルゴス版は、現存する48の『グーテンベルク聖書』の中でも、最も美しいものの一つとされている。

数年前、私共はこのブルゴス版をテキストとして使用する『グーテンベルク聖書』の復刻版が、スペインの出版社、Edition Vicent Garcia によって製作されるとの情報をドイツの販売代理店より入手した。

この復刻版には私も少なからぬ因縁がある。代理店からの情報とは別に復刻版刊行委員会から私に原稿の執筆依頼があった。復刻版刊行に際し、本体とは別に補遺して冊子を作るので『グーテンベルク聖書と日本』という題で私に論文を書けというものであった。私以外にも依頼するがそのメンバーは、アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、イタリア、スペインの『グーテンベルク聖書』を所有する著名な国公立の図書館員であるという。恐れおののきながらも、頼まれた以上はという気持で短時間に拙文をまとめ発送した。

『グーテンベルク聖書』の復刻版は、ドイツ、フランス及びアメリカで1913/14、1923、1961、1968、1979及び1985年に製作されている。そのうち1985年にパリで製作されたものには、マザラン図書館の、その他の５回の復刻版にテキストとして使用されたのは、ベルリンの国立プロイセン財団図書館及びフルダのフルダ州立図書館所蔵の『グーテンベルク聖書』である。

ドイツの販売代理店から送られてきた、ブルゴスの復刻版に関するパンフレット上に多くの疑問があり数回にわたり質問状を送ったが、はっきりした回答を得られなかった。また私が送った論文についても「受け取った」という連絡もなければ、その後「いつ頃出版する」とか、「中止になった」といった何らの連絡も今もってもらっていない。

そんなわけで復刻版ブルゴスの『聖書』に関し、私共では販売活動をしないことにした。1995年末に復刻版は出版されたが、ドイツの代理店が、私共にどうしても売ってくれということで1997年初頭に見本として１セット送ってきた。復刻版は素晴らしかった。42行で印刷されたゴチック書体の文字や、赤、青、緑等のインクや金泥を使って頭文字や紙面を彩飾された様子が忠実に復元されていた。また空押し模様のついた16世紀の総革装幀を原本に忠実に再現していた。しかしながら、私が復刻版を子細に調べていくうちに奇妙なことに気がついた。かなりの欠葉があり、かなりの個所の乱丁が見つかったのである。

『グーテンベルク聖書』の調査は、過去多くの学者によってなされたが、1911、1923、1979、1985年の調査が特に知られている。そのうち1911年の調査では、ブルゴスの『聖書』については何ら触れられていない。あとの３回の調査ではブルゴスの『聖書』の次の６枚が欠葉とされている。

Vol. 1 : leaf 294.

Vol. 2 : leaves 277-280, 308.

そして乱丁（書物のページの順序が狂っていること）に関しては、いっさい述べられていない。

ところが私が復刻版で調べたところ、次の11枚が欠葉であった。

Vol. 1 : leaves 1, 293, 320-321.

Vol. 2 : leaves 277-280, 308, 314-315.

そして次のような乱丁の状態で製本されていることがわかった。

Vol. 1 : leaves 2-168, 239-249, 229-238, 219-228, 209-218, 199-208, 189-198, 179-188, 169-178, 250-292, 294-319, 322-324.

Vol. 2 : leaves 1-276, 281-307, 309-313, 316-317.

そこであらためて、ドイツの販売代理店から送られてき

た各種のカタログを子細にチェックしてみた。しかし、そのどこにも欠葉とか乱丁について言及している個所は見あたらなかった。そして、次のような内容の質問状を次々と発送した。

1．私共が復刻版上で調べたところでは、欠葉は11枚だが、ほとんどの文献上では6枚となっている。どちらが正しいのか？
2．オリジナルの『グーテンベルク聖書』も、ルネッサンスの時代から乱れた製本状態なのか？
3．オリジナルは、正しく製本されているが復刻版製作の際あやまって製本したのか？

その結果ドイツの販売代理店からは、「出版社のVicent Garciaは良心的な出版社で原本に忠実に復刻した」との回答で、それ以上の説明はまったくなかった。またスペインの出版社にも2回問い合わせたがまったく返事がなかった。ブルゴス州立図書館の館長からは、過去2回お手紙をいただいたことがあったが、今回の問い合わせに対しては何らの返事がいただけなかった。

1985年、現存する48部の『グーテンベルク聖書』の調査を行ったニューヨークの図書館の元学芸員で、著名な書誌学者から次のようなお手紙をいただいた。「私は、ブルゴスの『聖書』は、オリジナルも復刻版も見たことはありません。ブルゴスの『聖書』の欠葉は6枚とした1923年の、Dr. Paul Schwenkeの調査をそのまま利用しました。Dr. Schwenkeも当時現品は見ていません。ブルゴス図書館へ手紙を出し、その回答を利用したのでしょう。しかし、Dr. Don Cleveland Normanは、1961年に世界各地の図書館を訪ね、調査結果を発表しましたが、それによると欠葉は11枚となっています。今回あなたが調べた結果と同じなので、こちらの方が正しいことがわかりました。自分はこの点に関し読者に迷惑をかけて申し訳ない。」さらに乱丁であることに関しては、「過去のいかなる文献（Dr. Normanの著作を含む）にも、ブルゴスの『聖書』が乱丁だとはなっていません。おそらくオリジナルは正しく製本されているが、復刻版が1995年に製本された際間違って装丁されたのでしょう。」ということであった。

そして最後に、グーテンベルグ博物館の館長で復刻版刊行委員会の一員でもあるDr. Eva Hanebutt-Benzからお手紙をいただいた。「委員会は、復刻版刊行に際し、ブルゴスの『聖書』を調査しました。そしてあなたの御指摘通り欠葉は11枚であり、多くの乱丁の個所も発見しました。乱丁は16世紀に装丁を直した際、製本師が間違ったため生じたものでありましょう。委員会は、復刻版刊行に際し乱丁の個所を正しく直して装丁するか、オリジナルと同様乱丁のまま装丁するか長い間論議しましたが、結局後者を選びました。」というものであった。

この件に関して、現品を入手してから真実を知るまで半年以上かかってしまった。それにしても、スペインの出版社やブルゴス州立図書館が復刻版刊行委員会とまったく連絡がとれてなさそうなのはなぜなのか？　またすでに復刻版を手にしたであろう世界各地の図書館やコレクターが、私のように騒いだ様子がまったく見えないのはなぜなのか？　今回のことで私共は色々なことを学んだ。『グーテンベルク聖書』は、人類にってもっとも大事な書物といっても間違いないだろう。我が国ではともかく、欧米では大変な数の研究書が数世紀にわたって出版されている。世界で、48部現存する『聖書』の書誌データは、とっくに調べつくされていると思った。しかし、現実には、1923年のデータを今だに利用していた状態だったのである。それで思い出したのだが、1987年私共が『ドヒニー・グーテンベルク聖書』を入手した際、他の47の『グーテンベルク聖書』を所蔵する図書館に書誌データを知らせてくれるよう頼んだことがある。しかし、その半分位しか返事をもらえなかった。欧米日の学者がプロジェクトチームを作って、現存する48部の『聖書』をしっかりとチェックし、ちゃんとしたデータを作ろうとすればそれほど難かしいことではないのではなかろうか？

そんなわけで、私共が発行した1997年の『欧米古書稀覯書目録』がブルゴスの『グーテンベルク聖書』の正確なデータを伝える世界でもはじめての印刷物となった。そして展示会の会期中、複数のお客様から復刻版のご注文をいただいた。

参考文献：

Schwenke, Paul.- Johannes Gutenberg zweiundvierzigzeilige Bible: Ergänzungsband zur Faksimile-Ausg. Leipzig, 1923.

Norman Don Cleveland.- The 500th Anniversary Pictorial Census of Gutenberg Bible. Chicago, 1961.

Johannes Gutenberg Zweiundvierzigzeilige Bible. Faksimile-Ausg. Kommentarb. München, 1979.

富田修二　『グーテンベルク聖書の行方』　1992年　図書出版社

コロンビア大学出版局の

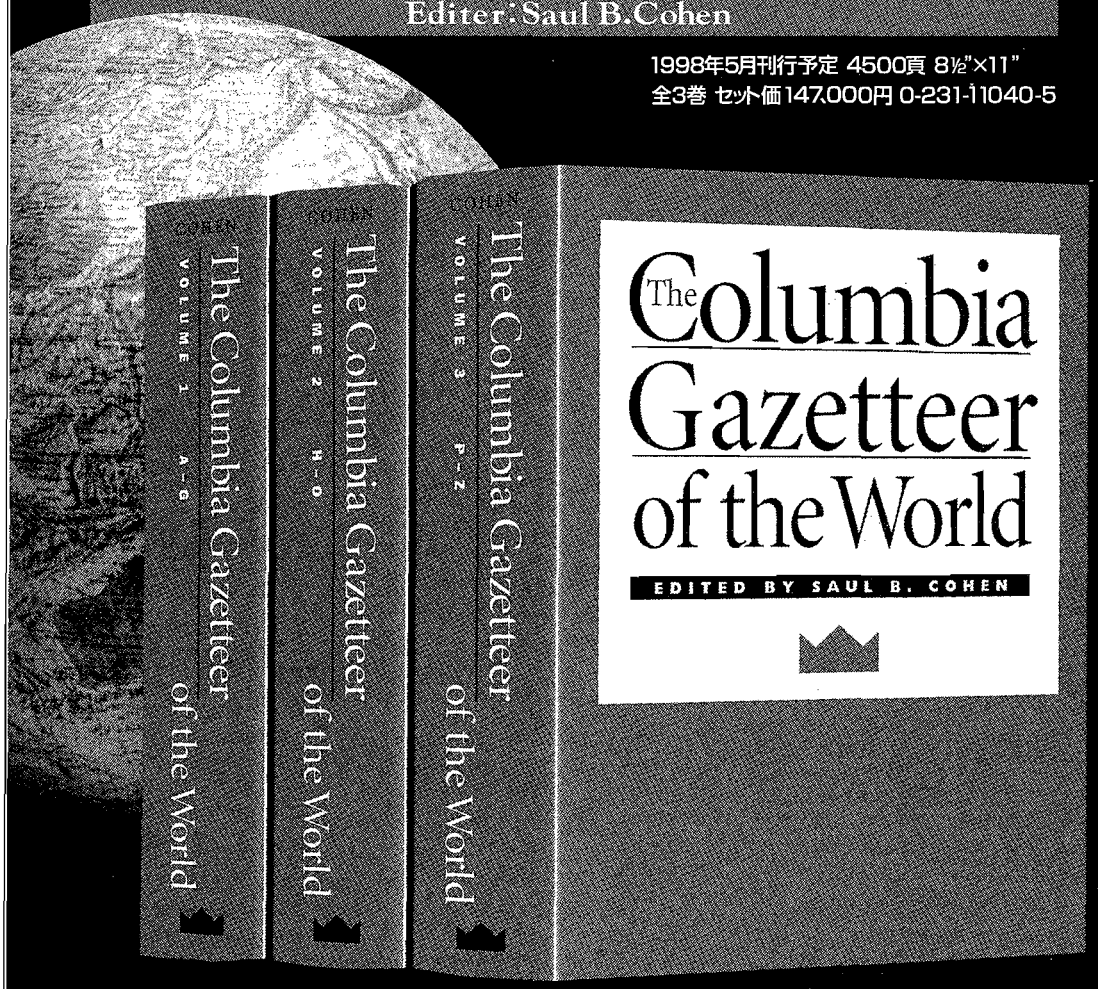
世界地名大辞典

地名辞典の決定版

The Columbia Gazetteer of the World

Editer: Saul B. Cohen

1998年5月刊行予定 4500頁 8½"×11"
全3巻 セット価147,000円 0-231-11040-5



Columbia University Press

日本総代理店 ユナイテッド・パブリッシャーズ・サービス社
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-9 研究社ビル 電話(03)3291-4541(代表)

＊記載の価格は消費税抜きの価格です。また為替相場の変動等により変わる場合があります。ご注文の際はISBNをお知らせ下さいますようお願い致します。

1998年3月　通巻第370号　洋書輸入協会　編集者　高橋　紘
〒103-0027　東京都中央区日本橋1－21－4　千代田会館5階20号室　☎(03)3271－6901　FAX.(03)3271－6920

印刷所＝藤本綜合印刷株式会社